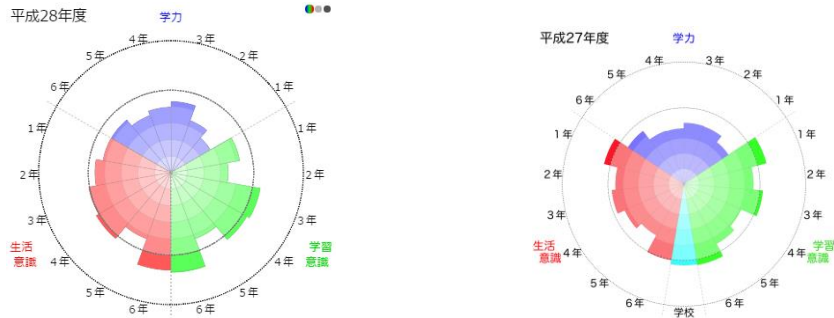


1 学力調査等からの実態把握

「学習状況調査」の結果 平成27・28年度の調査結果より



○学力

- ・漢字や基本的な計算は、日々の反復練習で良い結果が出ている。また個人差はあるが、じっくり読んで答えようとする跡も見られるようになった。算数では学年が上がると「知識・理解」「技能」「数学的な考え方」の力が伸びている。しかし応用力には課題がある。
- ・国語の大事なことを落とさず興味をもって聞くことや自分や友達がどのような考えに基づいているのかを明らかにしながら話し合うことはよい結果であり、国語を好きだと感じている児童が多くなってきたのも、「学び合い」の楽しさを味わっているからだと考え。しかし、登場人物の相互関係を読み取る設問、算数科の立式の意味を問う設問、社会科、理科の事実や事象からわかることを考える設問など、関連付けて考えたり、多面的に考えたりする思考力・判断力・表現力にかかわる設問に課題がある。
- ・漢字の書き取り、算数科の四則計算、社会科の地名など基礎的な知識技能にかかわる設問については、平均的には上昇している。しかし、個人的な差は大きい。
- ・習熟の遅いグループに対して学力保障するため、中学年で習熟度別少人数指導に取り組み、学力の向上、学習意識の高まりが見られた。
- ・国語の基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する指導を継続して行うようにする。

○学習意識

- ・中学年の学習意識が高くなってきている。
- ・学習についてやらなければならないという気持ちがあるが、宿題等の様子を見ると意識と現状の差は大きく、課題と言える。

○生活意識

- ・勉強が好きと回答した児童は、どの学年でも80%前後おり、昨年度より高学年の意識が高まっている。家庭での学習時間は依然1時間以上取り組む子が少なく、学習の習慣も付いていない児童が多いため、学力の大きな向上につながっていない。学校の勉強が分かりやすいと答える児童は多く、学ぶ楽しさは味わっていると言える。
- ・図工や家庭科、体育など活動が多い教科を好む傾向にある。
- ・自分にはよいところがあると思える児童の割合が市の平均よりも低い。挨拶を自ら行う児童は自分のよさを認める自己肯定感が高い傾向がある。
- ・就寝が21時ごろの児童が多く22時より遅い児童減ってきている。昨年同様、家庭環境を把握し、支援していく必要がある。

(3) 学校の状況・地域の実態

- 児童の学力はさほど高くなく、基礎的な内容を十分に理解できている児童と、できていない児童との差が大きい。
- ボランティアは充実しており、体験学習や活動の充実は図れているが、学力向上に向けた学校との協力体制の構築が必要。また、家庭環境に課題がある児童が多く、学習の定着を図ることが難しい。
- 教員一人ひとり授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいるが組織的な取組までは至っていない。基礎的な指導技術や継続して指導する根気強さを身につけることが課題。

2 今後の方向

(1) 最優先課題

- ア 学力の幅のある状況において安定した授業のできる授業力の向上
- イ 発達障害のある児童へ適切に対応できる授業力、対応力の向上

(2) 学力向上重点目標「中期学校経営方針」(平成28年度～平成30年度)

- ア 指導力を向上させ、課題解決を意図した授業を展開し、基礎・基本の定着と活用する力を向上させます。
- イ 一人ひとりの児童のニーズや個の実態に合った学習を充実させます。

### 3 平成29年度 具体的方策

#### 指導力を向上し、課題解決的な学習の充実（平成29年度目標）

##### (1) 教員一人ひとりの授業力向上への取組

###### ア 課題解決型学習の具現化

- 言語活動の充実
  - ・朝の会や帰りの会などで、新聞の紹介やその日の出来事などを話す時間を設ける。
  - ・相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする授業の展開をする。
  - ・児童の実態に合わせ、様々な言語活動を取り入れた授業を展開する。
- ノート指導、交流活動の充実
  - ・グラフの読み取り方や理科での考察など、自分の思いや考えを文章として表現させる指導を行う。
  - ・意見を交換し合ったり、考えの良さを伝えあったりする学び合い活動をどの授業にも取り入れる。
- 基礎的基本的な知識技能の習得
  - ・国語の教科書を継続的に音読する。
  - ・校内読書月間では、読み聞かせをしたり、本の紹介をしたりして、読書ノートの活用を励行する。
  - ・各学年の新出漢字は8割以上、四則計算は8割以上習得。
- 研究・研修の充実
  - ・年間1回以上の研究授業を実施。研究・研修時間の確保。
  - ・算数科の授業において指導事前の分析や指導内容の明確化を図る。

###### イ 個に応じた指導の充実

- 補充・基礎・発展的指導内容、家庭学習（宿題）の充実
  - ・「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上。
- 特別支援教育の充実
  - ・発達障害のある児童に対する授業中の支援における対応の研修。

##### (2) 学校組織としての取組

###### ア 課題解決型学習の具現化

- 学習の基盤となる躰、学習規律の形成
  - ・全児童が、挨拶、返事、靴を揃えて入れる、体育着をたたむ、椅子を机に入れることの徹底。
  - ・相手の顔を見て、姿勢正しく聞くことの徹底。
  - ・教室移動は静かに並んで行う。
  - ・専科の先生等にしっかり挨拶をして学習を進める。
- 学年会の充実
  - ・学年会において、授業力向上のための研修時間の確保と児童理解の充実。

###### イ 個に応じた指導の充実

- 小中連携合同研究会（基礎基本を身に着ける）
  - ・各教科の授業研究会を通して、指導力の向上を図る。
  - ・小・中学校のカリキュラムの見直しをする。
- 基礎・基本の充実
  - ・朝のスキルアップタイムの充実や家庭学習の習慣化を図る。

###### ウ 研究・研修体制の構築

- 研究・研修時間の確保。

###### エ 学校と家庭・地域の連携

- 学校評価の充実
  - ・懇談会・個人面談・家庭訪問等から保護者の思いや願いを受け止めながら共通理解をもつようにする。
  - ・学校と家庭と地域が協力し、基本的な生活習慣を身につける。
  - ・学校保健委員会を活用し、歯磨き、うがい、手洗い等の衛生面にも気を配り健康的な体づくりを推進する。
  - ・栄養指導を行い、食生活の充実を図る。

## 学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

- 横浜市学力・学習状況調査の結果を各学年で検証する。
  - ・ 検証したことをもとに、次年度の学年の指導の目標を立てる。
- 学校運営協議会
  - ・ 学習支援部会の取り組みを振り返りと学校評価の検討をする。
- 学校評価
  - ・ 児童、保護者からのアンケート方式による学校評価。